(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2022年12月29日(29.12.2022)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2022/270125 A1

(51) 国際特許分類:
A63H 33/00 (2006.01) *A63H 3/00* (2006.01)
G07F 11/00 (2006.01) *A63H 3/50* (2006.01)

(21) 国際出願番号： PCT/JP2022/017211

(22) 国際出願日： 2022年4月6日(06.04.2022)

(25) 国際出願の言語： 日本語

(26) 国際公開の言語： 日本語

(30) 優先権データ：
特願 2021-105621 2021年6月25日(25.06.2021) JP

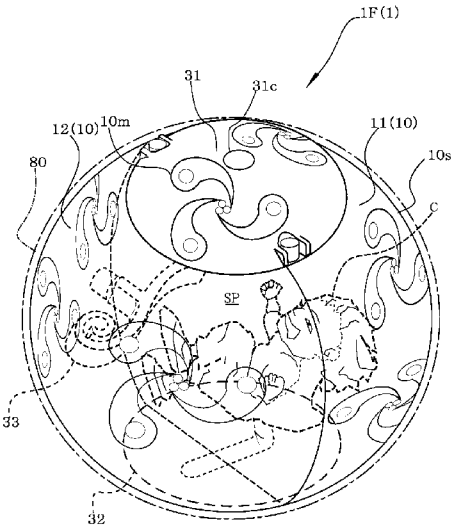
(71) 出願人：株式会社バンダイ (**BANDAI CO.,LTD.**) [JP/JP]; 〒1118081 東京都台東区駒形一丁目４番８号 Tokyo (JP).

(72) 発明者：光石 よう子 (**MITSUISHI Yoko**); 〒1118081 東京都台東区駒形一丁目４番８号 株式会社バンダイ内 Tokyo (JP). 村上 厳洋(**MURAKAMI Yoshihiro**); 〒1118081 東京都台東区駒形一丁目４番８号 株式会社バンダイ内 Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能)：AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JM, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,

(54) **Title:** TOY

(54) 発明の名称： 玩具



(57) **Abstract:** [Problem] To provide a highly amusing toy. [Solution] Provided is a toy 1 that can be changed between a first form 1F suppliable from a product supplying apparatus and a second form 2F that can display an object of interest, the toy 1 comprising a main part 10 forming a spherical shape, wherein, on an outer surface 10s of the main part 10, a first planar part 10f is formed in a first region, and a second planar part 20f is formed in a second region different from the first region. By forming the first planar part 10f and the second planar part 20f as flat regions of the outer surface 10f,

WO 2022/270125 A1

［続葉有］

QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告(条約第21条(3))

the main part 10 can be placed stably on a supporting surface when being used in the display form (second form 2F).

(57) 要約:【課題】興趣性の高い玩具を提供する。【解決手段】物品供給装置から供給可能な第１形態１Ｆと対象物を展示可能な第２形態２Ｆとに変化可能な玩具１であって、球型形状を成している主部品１０を備え、主部品１０は、その外表面１０ｓの第１部位に第１平面部１０ｆ、第１部位とは異なる第２部位に第２平面部２０ｆが形成されている。外表面１０ｓに平坦な部位として第１平面部１０ｆ及び第２平面部２０ｆが形成されていることで、主部品１０を展示形態(第２形態２Ｆ)に利用するときに、載置面に安定して載置する。

明　細　書

発明の名称 ： 玩具

技術分野

[0001]　本発明は、玩具に関する。

背景技術

[0002]　従来、カプセル内部に人形などを収納して自動販売機で販売されるカプセル玩具がある。例えば特許文献１においては、カプセル構成部材で構成されるカプセル内部には、玩具を組立てるための部品が収納されている。カプセル構成部材の切り口には、切欠が所定数設けられており、この切欠に部品の一部又は全てを嵌入させて玩具を形成し得るようになっている。また、カプセルの離脱防止策として、カプセル構成部材の内壁には、カプセル構成部材の切り口を狭持するためのリブが所定数設けられている構成が開示されている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開平０７－１４８３５８号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004]　特許文献１においては、カプセル自体を玩具の部品とし利用する構造が記載されている。しかしながら、カプセルを玩具の一部として使用する際のカプセルの使用形態としては、販売時の球形状であるため、玩具の形状がカプセルの球形状に左右される。このため、本来のキャラクターのイメージを維持することが難しくなり、キャラクターによっては、カプセル形状によってその形状が大きく変わってしまい、キャラクター自体の品質上の問題を生じ、その興趣性を維持できない課題を有していた。また、玩具自体の全体的な形状が球形を基本とするために、玩具の載置状態、展示状態が不安定で安定感がない、という問題がある。

[0005] 本発明は、展示形態においてキャラクターのイメージを高めることができ且つ展示も容易で安定感のある興趣性の高い玩具を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0006] 本発明に係る玩具は、物品供給装置から供給可能な第１形態と対象物を展示可能な第２形態とに変化可能な玩具であって、球型形状を成している主部品を備え、前記主部品は、その外表面の第１部位に第１平面部、前記第１部位とは異なる第２部位に第２平面部が形成されている。

発明の効果

[0007] 本発明によれば、興趣性の高い玩具を提供することができる。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]本発明の一実施形態の玩具における第１形態の正面図である。

[図2]図１に示す第１形態における玩具を上方から見た斜視図である。

[図3]図１に示す第１副部品の取付け構造を示す斜視図である。

[図4]第１副部品の内面を示す斜視図である。

[図5]図１に示す第２副部品の取付け構造を示す斜視図である。

[図6]図１に示す主部品を分解した状態を示す分解斜視図である。

[図7]展示形態におけるフィギュアの組み込みを示す斜視図である。

[図8]展示形態における第３副部品の組み込みを示す斜視図である。

[図9]玩具の第２形態の一例を示す斜視図である。

[図10]玩具の第２形態の他の例を示す斜視図である。

[図11]玩具の第３形態の一例を示す斜視図である。

[図12]玩具の第３形態の他の例を示す斜視図である。

[図13]模様の形成形態を示す拡大斜視図である。

発明を実施するための形態

[0009] 以下、本発明の一実施形態の玩具について、図１～図１３を参照して説明する。

図１は、玩具１の第１形態１Ｆにおける正面図である。図２は、図１に示す第１形態１Ｆにおける玩具１を上方から見た斜視図である。

[0010] 図１及び図２に示すように、第１形態１Ｆの玩具１は、主部品１０として第１外殻部品１１と第２外殻部品１２とを備え、外観的には略球形を成している。第１形態１Ｆにおいては、上部に第１副部品３１が設けられ、下部に第２副部品３２が設けられている。玩具１の外表面１０ｓは、第１外殻部品１１、第２外殻部品１２、第１副部品３１、及び第２副部品３２によって構成されており、この外表面１０ｓを覆うようにラッピングフィルム８０が設けられている。このように、玩具１は、店頭において供給（販売）されるものではなく、第１形態１Ｆにおいて玩具自体が転動し易い球形状とすることで、物品供給装置から供給可能な形態となっている。物品供給装置は、玩具１をランダムな配置で複数収容可能な収容部と、代価の支払いを条件として収容部から一つずつ玩具１を供給可能に制御する制御部と、収容部から供給口へと通ずる通路部とを備えている。玩具１は、複数の部品から構成されているため、分離し易いという特徴があるが、転動し易い形状としたことで、物品供給装置からの供給の際の分離や破損等を回避しつつ、ユーザの手元に供給可能な構成となっている。

[0011] なお、外表面１０ｓには模様１０ｍが形成されており、内部には空間ＳＰが形成され、後述する対象物であるキャラクターＣ等を収容可能である。そして、玩具１は、ラッピングフィルム８０を剥がし分解することで内容物を取り出して、キャラクターＣ等を用いた組み立を行い、展示状態である第２形態２Ｆ（図９参照）、及び第３形態３Ｆ（図１１参照）に変化可能である。

[0012] 図３は、第１副部品３１の取付け構造を示す斜視図であり、図４は、第１副部品３１の内面を示す斜視図である。

図３に示すように、主部品１０の上部の第１部位には、第１平面部１０ｆが形成されており、この第１平面部１０ｆに略円盤状の第１副部品３１が設けられる。第１平面部１０ｆは、第１外殻部品１１と第２外殻部品１２との

接合線１０ｃにより分割される構成である。すなわち、第１平面部１０ｆは、第１外殻部品１１側に形成された第１按分部１１ｆと、第２外殻部品１２側に形成された第２按分部１２ｆと、で按分された平面である。なお、第１外殻部品１１は、第２外殻部品１２よりも大きく構成されており、第１按分部１１ｆのサイズ（面積）も、第２按分部１２ｆのサイズ（面積）よりも大きく構成されている。また、第１按分部１１ｆ側には、接合線１０ｃに接近した位置に一対の円柱状の第１連結部１１ｃ設けられている。

[0013] 第１副部品３１の外表面３１ｓは、図３に示すように球面（外表面１０ｓ）の一部を成す湾曲面に構成されており、模様１０ｍが形成されている。また、第１副部品３１の外周縁には、一対の取付切欠き３１ｂが設けられており、中央には、後述する第３副部品３３（図８参照）が取付けられる挿入孔３１ｃが形成されている。

[0014] 一方、第１副部品３１の内面３１ｉは、図４に示すように、第１平面部１０ｆに対応するように構成されている。すなわち、内面外周縁には、内面３１ｉの湾曲面とは異なり所定の幅を有する平坦な環状平坦部３１ｅが形成されており、さらに、中央部には、挿入孔３１ｃが形成されたボス部３１ａが環状平坦部３１ｅと同じ高さに突設されている。したがって、第１形態１Ｆにおいて、第１副部品３１は、環状平坦部３１ｅ及びボス部３１ａが第１平面部１０ｆに接し、且つ一対の取付切欠き３１ｂが一対の第１連結部１１ｃに嵌合して、第１平面部１０ｆを覆うように連結されている。

[0015] 図５は、第２副部品３２の取付け構造を示す斜視図である。

主部品１０の下部の第２部位には、図５に示すように、第２平面部２０ｆが形成されており、この第２平面部２０ｆに第２副部品３２が設けられる。第２平面部２０ｆにおいても、第１外殻部品１１と第２外殻部品１２との接合線１０ｃにより分割される構成である。すなわち、第２平面部２０ｆは、第１外殻部品１１側に形成された第３按分部２３ｆと、第２外殻部品１２側に形成された第４按分部２４ｆと、で按分された平面となっている。なお、第２平面部２０ｆは、第１平面部１０ｆのサイズと同じに構成されている。

また、第３按分部２３ｆのサイズ（面積）は、第４按分部２４ｆのサイズよりも大きく構成されている。

[0016] 第２副部品３２は、外表面３２ｓ（外表面１０ｓ）においては、球面の一部を成すように湾曲面に構成されており、内面においては、第１副部品３１の環状平坦部３１ｅと同様な平坦部を有して第２平面部２０ｆに対応した形状となっている。また、第２副部品３２の外周縁には、３つの取付切欠き３２ｂが設けられている。この３つの取付切欠き３２ｂは、その内の２つが、一対の第２連結部２２ｃの突起部２２ｃｂに係合し、残りの１つが、キャラクターＣを装着する装着孔３２ｃが形成された装着孔用突起３２ｃｂに係合する。すなわち、第１形態１Ｆにおいて、第２副部品３２は、３箇所の係合によって係止されて第２平面部２０ｆを覆う。なお、第２副部品３２は、第２形態２Ｆ、及び第３形態３Ｆにおいて、使用することなく取り外されるため、模様１０ｍは形成されていない。

[0017] 図６は、主部品１０を分解した状態を示す分解斜視図である。

主部品１０は、前述のように、第１外殻部品１１及び第２外殻部品１２にて構成されているが、この第１外殻部品１１及び第２外殻部品１２は、図６に示すように、両方とも例えば略半球形に構成されている。例えば、第１形態１Ｆにおいて内部に球形の空間ＳＰを形成するように、両外殻部品１１，１２の開口部１１ｏ，１２ｏを形成する開口縁１１ｅ，１２ｅ同士が連結可能に構成されている。

[0018] より詳細には、第１外殻部品１１の開口縁１１ｅに、例えば、開口縁内側が凹むように薄肉に構成された内側段部１１ｅｄが形成されている。一方、第２外殻部品１２の開口縁１２ｅに、開口縁外側が凹む薄肉に構成された外側段部１２ｅｄが形成されている。そして、第２外殻部品１２の外側段部１２ｅｄが第１外殻部品１１の内側段部１１ｅｄに嵌まり込むことで、両外殻部品１１，１２が連結され第１形態１Ｆにおける空間ＳＰが形成される。

[0019] なお、第１外殻部品１１と第２外殻部品１２とは、半球として膨らみ（深さ）が異なり、そのサイズは、第１外殻部品１１が第２外殻部品１２よりも

大きく構成されている。

[0020] 第１按分部１１ｆに形成された円柱形状の一対の第１連結部１１ｃは、第３按分部２３ｆに設けられた円形の貫通孔の第２連結部２２ｃに嵌入できるサイズに構成されている。また、一対の第１連結部１１ｃ間の間隔は、第２連結部２２ｃ間の間隔と同じに構成されている。したがって、１つの第１外殻部品１１の第１連結部１１ｃと、他の第１外殻部品１１の第２連結部２２ｃと、は嵌合して連結することができる。これにより、複数の第１外殻部品１１を連結可能で有り、単独の第２形態２Ｆとは異なった第３形態３Ｆの展示形態に組み立てることができる。

[0021] 第１外殻部品１１及び第２外殻部品１２は、例えば合成樹脂を素材として形成され適宜剛性を備えている。また、その外表面１０ｓの描かれた模様１０ｍは、キャラクターＣを想起させる適宜関連模様が形成されている。また、両外殻部品１１，１２の色については特に限定するものではないが、例えば、光透過性の素材にて構成することができる。

[0022] 図７は、展示形態におけるキャラクターＣの組み込みを示す斜視図である。図８は、展示形態における第３副部品３３の組み込みを示す斜視図である。

図７に示すように、キャラクターＣには、例えばその身体の後側に、下方（脚部と同じ方向）に向かって延出された保持棒４１が設けられている。一方、第１外殻部品１１の第３按分部２３ｆの内面側の按分平坦部２３ａには、キャラクターＣを載置できる広さを有し、さらに、保持棒４１を挿入・嵌合できる装着孔３２ｃが設けられている。第２形態２Ｆ、及び第３形態３Ｆにおいて、キャラクターＣは、按分平坦部２３ａ上に保持される。なお、装着孔３２ｃが形成されている部位は、第３按分部２３ｆ側（図中において下側）に突出する装着孔用突起３２ｃｂが設けられていることで、保持棒４１の挿入しろが確保されている。

[0023] 図８に示すように、第３副部品３３は、例えば果実のヘタを模した形状で、例えば、果実本体側に繋がる軸部３３ａが第１副部品３１の挿入孔３１ｃ

に嵌入される。そして、主部品１０が植物の実を模した形状で展示される展示状態（図９参照）において、その上部を装飾する。なお、軸部３３ａの先端部分（嵌入される部分）の断面形状は円形に構成されており、その装着向きは適宜方向に向けることができるが、向きを特定する非円形の形状であっても良い。なお、第１形態１Ｆにおいては、第１副部品３１は、ラッピングフィルム８０により覆われ保持されている（図２参照）ことから、第３副部品３３は、第１副部品３１に取付けることができず、空間ＳＰ内に収容されている。

[0024] 図９は、第２形態２Ｆの一例を示す斜視図である。

図９に示す展示形態は、第１外殻部品１１と、第１副部品３１と、及び第３副部品３３とを、使用してキャラクターＣを展示した場合である。この場合、第１副部品３１は、第１形態１Ｆの場合と同様に第１外殻部品１１の第１連結部１１ｃに取付け固定されている。また、第１外殻部品１１は、図９において裏面側の３つの突起（一対の突起部２２ｃｂ、及び装着孔用突起３２ｃｂ）が設けられていることで、載置面６０上に安定して置かれる。

また、本実施形態においては、第１外殻部品１１の内面には模様は形成されていないが、この第１外殻部品１１が光透過性の素材にて形成されている場合には、展示状態においては、外表面１０ｓに設けられた模様１０ｍが、光の透過によって内面側から見ることができる。

[0025] 図１０は、第２形態２Ｆの他の例を示す斜視図である。

図１０に示す展示形態は、第１外殻部品１１と、第２外殻部品１２と、第１副部品３１と、及び第３副部品３３とを使用し、閉じた球形の中にキャラクターＣを展示した場合である。この場合、キャラクターＣは図９の場合と同様に固定され、更に、第２副部品３２以外は、全て使用して略球形の果実に構成されている。

[0026] この場合、キャラクターＣの載置面は、第１外殻部品１１の按分平坦部２３ａ、及び第２外殻部品１２の按分平坦部２４ａの合わされた大きい平坦部２０ａ（第２平面部２０ｆに対応する内面側の平坦部分）にて構成されてい

る。したがって、より大きな他のキャラクターＣも展示も可能となる。また、特に、第２外殻部品１２が光透過率の良いように構成されていることで、展示状態においては、外表面１０ｓに描かれた模様１０ｍの中にキャラクターＣがいる演出が効果的になされる。

[0027] 図１１は、第３形態３Ｆの一例を示す斜視図である。

展示形態の他の例として、図１１に示す場合は、第１外殻部品１１が縦に３個に連結された第３形態３Ｆの第１展示状態である。この第３形態３Ｆは、上下に隣合う第１外殻部品１１においては、一方の第１外殻部品１１の第３按分部２３ｆに対して、他方の第１外殻部品１１の第１按分部１１ｆが一対一で対面した位置で連結されている。具体的には、下側の第１外殻部品１１の一対の第１連結部１１ｃと上側の第１外殻部品１１の一対の第２連結部２２ｃとが嵌合している。また、上側の第１外殻部品１１の装着孔用突起３２ｃｂは、下側の第１外殻部品１１の第１按分部１１ｆに接しており、下側の第１外殻部品１１の第１按分部１１ｆと上側の第１外殻部品１１の第３按分部２３ｆとが図示の如く隙間を形成した状態で縦に一直線に連結されている。なお、第３副部品３３が組み込まれた第１副部品３１は、最上位置にある第１按分部１１ｆにのみ装着可能である。この展示形態では、細長く高い展示形態を演出する。

[0028] 図１２は、第３形態３Ｆの他の例を示す斜視図である。

展示形態の他の例として、図１２に示す場合は、２個の第１外殻部品１１の上に１個の第１外殻部品１１が乗ったピラミット形状（或いは三角形状）の配置で連結された第２展示状態である。この第３形態３Ｆは、上部の１つの第１外殻部品１１の第３按分部２３ｆに対して、下部の２つの第１外殻部品１１の第１按分部１１ｆが一対二で対応して連結されている第３形態３Ｆの第２展示状態である。すなわち、この第２展示状態は、上側の第１外殻部品１１の第２連結部２２ｃに対して下側の２つの第１外殻部品１１の第１連結部１１ｃの１つずつが嵌合する連結状態である。なお、図示では、３個のピラミット形状であるが、図示の２個の第１外殻部品１１の下に更に３個の

第１外殻部品１１を連結するように増やすことができる。この場合においても、第３副部品３３が組み込まれた第１副部品３１は、最上位置にある第１外殻部品１１の第１按分部１１ｆにのみ装着可能である。この展示形態では、安定した展示形態を演出することができる。

[0029] 図１３は、模様の形成形態を示す拡大斜視図である。

第１外殻部品１１、第２外殻部品１２、及び第１副部品３１の外表面１０ｓに形成される模様１０ｍは、プリントにて描いた模様であってもよいが、例えば、図１３に示すように、模様１０ｍ全体を外表面１０ｓから浮き上がるように突形状に形成することができる。また、この突形状とは異なり、外表面１０ｓから凹むような凹形状、もしく模様１０ｍも輪郭部分を線状の溝を用いて描く溝形状等を用いて形成することもできる。

[0030] 模様１０ｍの形成形態において、樹脂の表面に凹凸形状を有して形成されている場合には、特に、第１外殻部品１１等の素材が光透過性の樹脂であると、表面の凹凸や厚みによる光の透過率、さらに光の屈折を利用して模様１０ｍに変化を持たせることができる。また、模様１０ｍが外表面１０ｓのみの形成であっても、キャラクターＣの背後の壁面に直接描かれた模様ではなく、壁面の厚みや光の屈折（特に透明度が高い場合）を利用した間接的な演出と、色彩模様との協働により微妙な模様演出を可能とする。また、図示において、外表面１０ｓのみに模様１０ｍが形成されているが、内面側に形成されていても良い。

[0031] 以上述べたように、本実施形態の玩具１においては、主部品１０は、外観が球形状で内部に空間ＳＰが形成できるので、第１形態１Ｆにおいてはキャラクターや第３副部品３３等を収容でき、第２形態においてはキャラクターＣを内部に展示することが可能である。また、第１形態１ｆにおいては、玩具自体が転動することができるので、物品供給装置などの販売機によって自動販売が可能な構成である。また、主部品１０は、略半球形の第１外殻部品１１、及び第２外殻部品１２にて構成され、各々開口部１１ｏ，１２ｏの開口縁１１ｅ，１２ｅ同士が連結可能に構成されているので、各形態変化が

容易でありキャラクターＣの出し入れも容易である。

[0032] 本実施形態の玩具１は、球型形状を成している主部品１０において、その外表面１０ｓに平坦な部位として第１平面部１０ｆ及び第２平面部２０ｆが形成されているので、主部品１０を展示形態（第２形態２Ｆ、又は第３形態３Ｆ）に利用するときに、載置面に安定して載置することができる。また、第２平面部２０ｆの内面側の平坦部２０ａ又は第３按分部２３ｆの内面側の按分平坦部２３ａを形成することができ、キャラクターＣを載置・展示し易い構成とすることができる。更に、外観が球形の部品に平坦な部位が形成されていることで、連結構造（凹凸や孔等）を形成し易くできるだけでなく、平面同士を対面させる連結によって連結状態を安定・保持することができる。

[0033] また、本実施形態の玩具１によれば、第１形態１Ｆにおいて、主部品１０に対して第１副部品３１が第１連結部１１ｃを介して連結され、第２副部品３２が第２連結部２２ｃを介して連結されるので、両副部品３１，３２は、単に平坦な部位に置かれる場合と異なり確実に係止・固定され、ラッピングフィルム８０を装着しなくても主部品１０と共に球形状を維持することができる。

[0034] さらに、第２形態２Ｆ或いは第３形態においては、第３副部品３３が取付けられた第１副部品３１は、少なくとも最上位置にある第１連結部１１ｃに連結できるので、展示状態での装飾部品として確実に固定保持される。

[0035] また、第１平面部１０ｆは、そのサイズが第２平面部２０ｆのサイズと同じに構成され、両平面部１０ｆ，２０ｆが上下（１８０度反対側）に形成されているので、主部品１０をキャラクターＣを収容した展示部品として用いたときに、天地の形状バランスが安定し心地よい展示を演出することができる。

[0036] 本実施形態の玩具１では、第１外殻部品１１は、そのサイズが第２外殻部品２のサイズよりも大きく構成されているので、第１外殻部品１１を単独で展示形態に用いるときに、展示領域を大きくでき見栄えの良い演出ができる

。

[0037] 本実施形態の玩具１では、第１外殻部品の第１按分部１１ｆ及び第３按分部２３ｆのサイズは、第２外殻部品１２の第２按分部１２ｆ及び第４按分部２４ｆのサイズよりも大きく構成されているので、第１外殻部品１１を展示形態で使用するときに、キャラクターＣの展示面積を大きくでき、また、第１外殻部品１１を連結する場合において、平坦な部分を大きくできて連結・固定をより確実にすることができる。

[0038] また、本実施形態の玩具１は、第１形態において、第２平面部２０ｆに装着可能な第２副部品３２が設けられているので、第２平面部２０ｆに形成された突起構造を第２副部品３２にて覆うようにでき、玩具１の全体形状を球形に近づけることができる。

[0039] また、本実施形態の玩具１においては、第１外殻部品１１の一端側に第１連結部１１ｃが設けられ且つ他端側に第２連結部２２ｃ設けられ、しかも両連結部１１ｃ，２２ｃ同士は互いに連結可能に構成されているので、複数の主部品１０（第１外殻部品１１）同士の連結を行うことができる。しかも、両連結部１１ｃ，２２ｃは、連結部位が複数個並んだ構造となってるので、連結部位の個別の連結によって、一対複数個（２個以上も可能）対応の連結形態が可能となる。この結果、連結形態の変化を楽しむことができ、多様な演出効果を得ることができる。

[0040] 本実施形態の玩具１においては、主部品１０の外表面１０ｓを形成する第１外殻部品１１、第２外殻部品１２、及び第１副部品３１は、その各外表面に同種の模様１０ｍが形成されているので、第１形態１Ｆ（販売形態）並びに展示形態の何れの状態でも模様１０ｍによる演出をすることができる。

[0041] また、模様１０ｍが、第１外殻部品１１の内表面にも形成されている場合には、内表面の模様１０ｍによってキャラクターＣを演出することができる。

。

[0042] さらに、第１外殻部品１１及び第２外殻部品１２が光透過性の部材にて構成されている場合には、模様１０ｍが外表面１０ｓのみ形成されている構成

であっても、展示形態において外殻部品内側から模様１０ｍを見ることができる。また、球形状の中にキャラクターＣが展示される場合には、第１外殻部品１１及び第２外殻部品１２の模様１０ｍの中にキャラクターＣがいる演出を行うことができる。

[0043] また、本実施形態の玩具１は、模様１０ｍが、凹形状、突形状、溝形状の如く、樹脂の表面の凹凸により表現を含む場合、特に、第１外殻部品１１等の素材が光透過性の樹脂であることで、光の屈折や濃淡を利用して模様１０ｍに変化を持たせて、模様１０ｍの演出の多様化を図ることができ、キャラクターＣの展演出効果を高めることができる。

[0044] 以上、本発明の実施形態について説明したが、本発明はその技術思想の範囲で適宜変更することができる。例えば、上記実施形態においては、第２連結部２２ｃは、貫通孔としたが、この構成に限るものではなく、例えば、凹形状であっても良い。

また、上記実施形態においては、取付切欠き３１ｂは、切り欠き形状としたが、この構成に限るものではなく、例えば、挿入孔であっても良い。

また、上記実施形態においては、第１平面部１０ｆ、及び第２平面部２０ｆの形状は略円形の形状として構成したが、必ずしも円形でなくても良く、例えば、主部品１０の形状が若干いびつな球形状である場合には、それに伴って円形でない形状となる。

符号の説明

[0045]

１	玩具
１Ｆ	第１形態
２Ｆ	第２形態
３Ｆ	第３形態
１０	主部品
１０ｆ	第１平面部
１０ｍ	模様
１０ｓ	外表面

１１	第１外殻部品
１１ｃ	第１連結部
１１ｆ	第１按分部
１１ｏ	第１外殻部品の開口部
１２	第２外殻部品
１２ｆ	第２按分部
１２ｏ	第２外殻部品の開口部
２０ａ	平坦部
２２ｃ	第２連結部
２０ｆ	第２平面部
２３ｆ	第３按分部
２３ａ	按分平坦部
２４ｆ	第４按分部
３１	第１副部品
３２	第２副部品
３３	第３副部品
６０	載置面
Ｃ	キャラクター（対象物）
ＳＰ	空間

請求の範囲

[請求項1] 物品供給装置から供給可能な第１形態と対象物を展示可能な第２形態とに変化可能な玩具であって、

球型形状を成している主部品を備え、

前記主部品は、その外表面の第１部位に第１平面部、前記第１部位とは異なる第２部位に第２平面部が形成されている、

玩具。

[請求項2] 請求項１に記載の玩具であって、

前記主部品は、前記第１形態、及び前記第２形態において、前記対象物を内部に収容可能に構成されている、

玩具。

[請求項3] 請求項１又は２に記載の玩具であって、

前記第１平面部は、そのサイズが前記第２平面部のサイズと同じに構成されている、

玩具。

[請求項4] 請求項１～３のいずれか一項に記載の玩具であって、

前記主部品は、第１外殻部品と、前記第１外殻部品に連結可能な第２外殻部品とから構成され、

前記第１外殻部品は、そのサイズが前記第２外殻部品のサイズよりも大きい、

玩具。

[請求項5] 請求項４に記載の玩具であって、

前記第１外殻部品、及び前記第２外殻部品は、各々開口部を形成している半球型形状を成し、各々の前記開口部の縁部同士が連結可能に構成されている、

玩具。

[請求項6] 請求項５に記載の玩具であって、

前記第１平面部は、前記第１外殻部品と、前記第２外殻部品と、に

按分されており、

前記第１外殻部品における前記第１平面部を構成する一方側の第１按分部のサイズは、前記第２外殻部品における前記第１平面部を構成する他方側の第２按分部のサイズよりも大きい、

玩具。

[請求項7] 請求項６に記載の玩具であって、

前記第２平面部は、前記第１外殻部品と、前記第２外殻部品と、に按分されており、

前記第１外殻部品における前記第２平面部を構成する一方側の第３按分部のサイズは、前記第２外殻部品における前記第２平面部を構成する他方側の第４按分部のサイズよりも大きい、

玩具。

[請求項8] 請求項７に記載の玩具であって、

前記第１外殻部品は、前記第２外殻部品と分離した前記第２形態において、前記第３按分部に対応する内面側の按分平坦部に前記対象物を展示可能に構成されている、

玩具。

[請求項9] 請求項７又は８に記載の玩具であって、

前記第１外殻部品、及び前記第２外殻部品は、各々の前記開口部の縁部同士が連結した前記第２形態において、前記第１外殻部品、及び前記第２外殻部品に形成されている前記第２平面部に対応する内面側の平坦部上に前記対象物を展示可能に構成されている、

玩具。

[請求項10] 請求項７～９の何れか一項に記載の玩具であって、

前記第１形態において、前記第１平面部に装着可能な第１副部品と、前記第２平面部に装着可能な第２副部品とをさらに備え、

前記第２副部品は、前記第２形態において、取り外されている、

玩具。

[請求項11] 請求項１０に記載の玩具であって、

前記第１外殻部品には、前記第１按分部に第１連結部が形成され、かつ前記第３按分部に第２連結部が形成されている、

玩具。

[請求項12] 請求項１１に記載の玩具であって、

前記第１連結部は、他の玩具の前記第１外殻部品の前記第２連結部と連結可能に構成され、前記第１連結部と前記第２連結部との連結により、前記第２形態とは異なり、前記対象物を展示可能な第３形態に変化可能である、

玩具。

[請求項13] 請求項１２に記載の玩具であって、

前記第３形態は、１つの前記第１外殻部品の前記第３按分部に対して、他の前記第１外殻部品の前記第１按分部が一対一で対応し連結される第１展示状態と、１つの前記第１外殻部品の前記第３按分部に対して、他の２つの前記第１外殻部品の前記第１按分部が一対二で対応し連結される第２展示状態とを含んでいる、

玩具。

[請求項14] 請求項１１～１３の何れか一項に記載の玩具であって、

前記第１形態において、

前記第１副部品は、前記第１連結部を介して前記第１外殻部品と連結され、

前記第２副部品は、前記第２連結部を介して前記第１外殻部品と連結される、

玩具。

[請求項15] 請求項１３に記載の玩具であって、

前記第１副部品は、前記第３形態において、最上位置にある前記第１平面部、又は前記第１按分部にのみ装着可能に構成されている、

玩具。

[請求項16] 請求項１０～１５の何れか一項に記載の玩具であって、

第３副部品をさらに含み、

前記第１副部品は、前記第１形態において前記第３副部品が装着不可能に構成され、前記第２形態において前記第３副部品の装着が可能に構成されている、

玩具。

[請求項17] 請求項１６に記載の玩具であって、

前記主部品は、植物の実を模した形状を成し、前記第３副部品は、前記植物のヘタを模した形状を成している、

玩具。

[請求項18] 請求項１０～１７の何れか一項に記載の玩具であって、

前記第１外殻部品、前記第２外殻部品、及び前記第１副部品は、その外表面に同種の模様が形成されている、

玩具。

[請求項19] 請求項１８に記載の玩具であって、

前記模様は、前記第１外殻部品の内表面にも形成されている、

玩具。

[請求項20] 請求項１８に記載の玩具であって、

前記第１外殻部品は、前記模様が内側から見える光透過性の部材にて構成されている、

玩具。

[請求項21] 請求項１８～２０の何れか一項に記載の玩具であって、

前記模様は、凹形状、突形状、又は溝形状を含む、

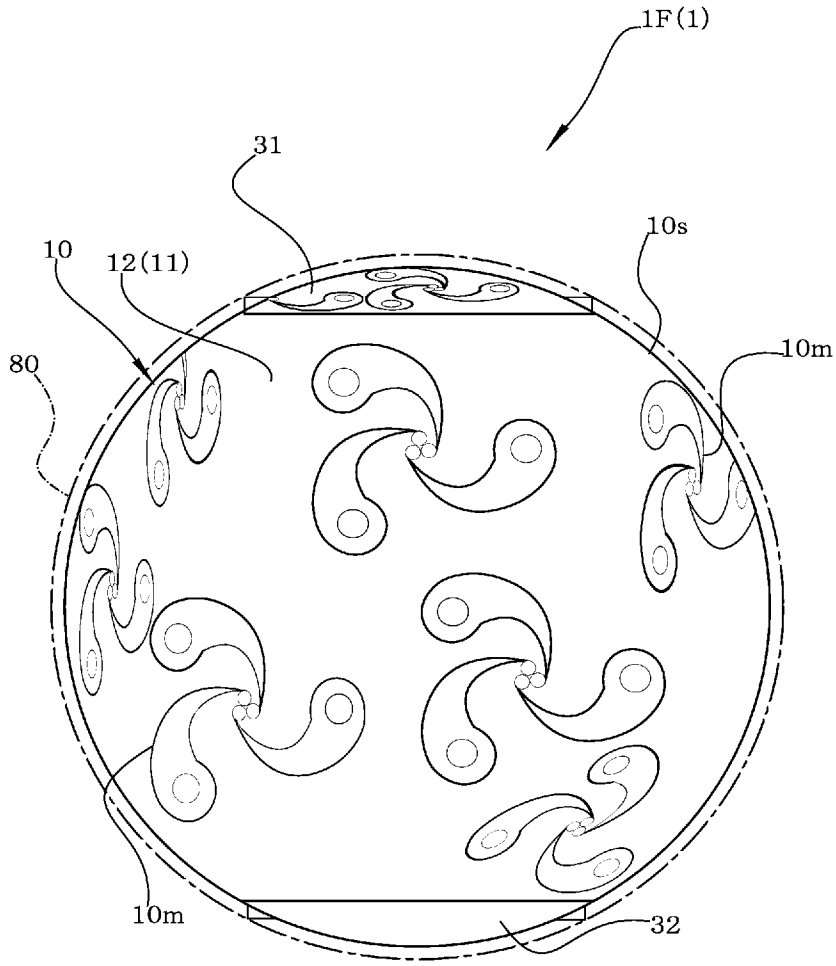
玩具。

[請求項22] 請求項１～２１の何れか一項に記載の玩具であって、

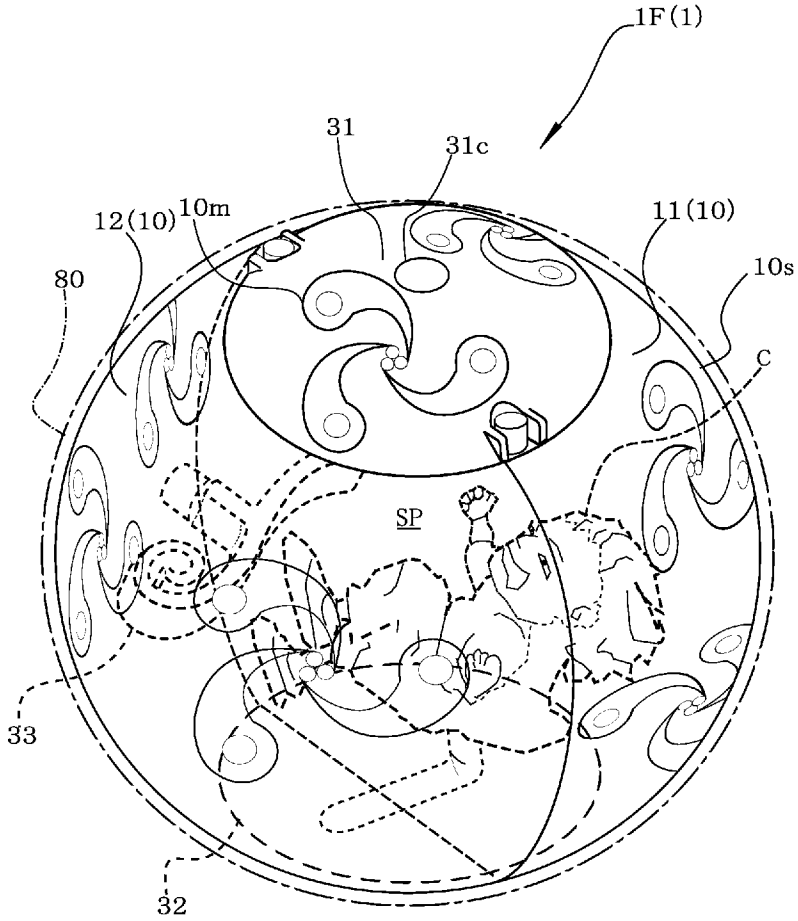
前記対象物は、キャラクター形状の部品である、

玩具。

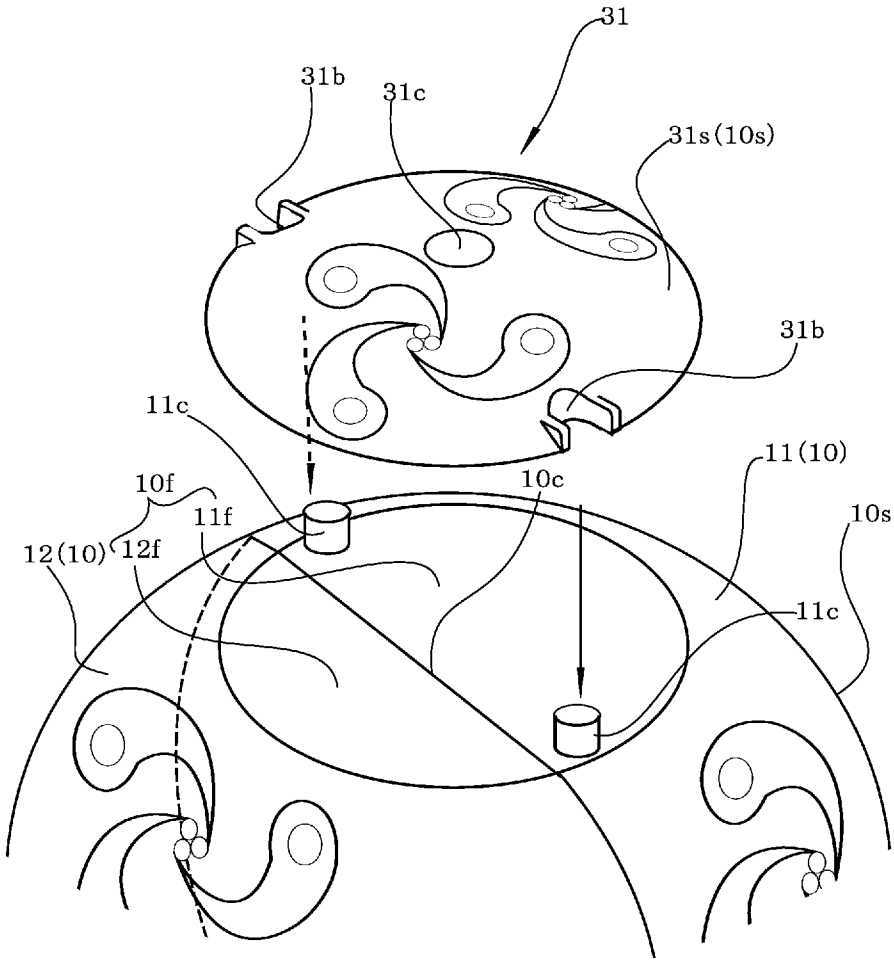
[図1]



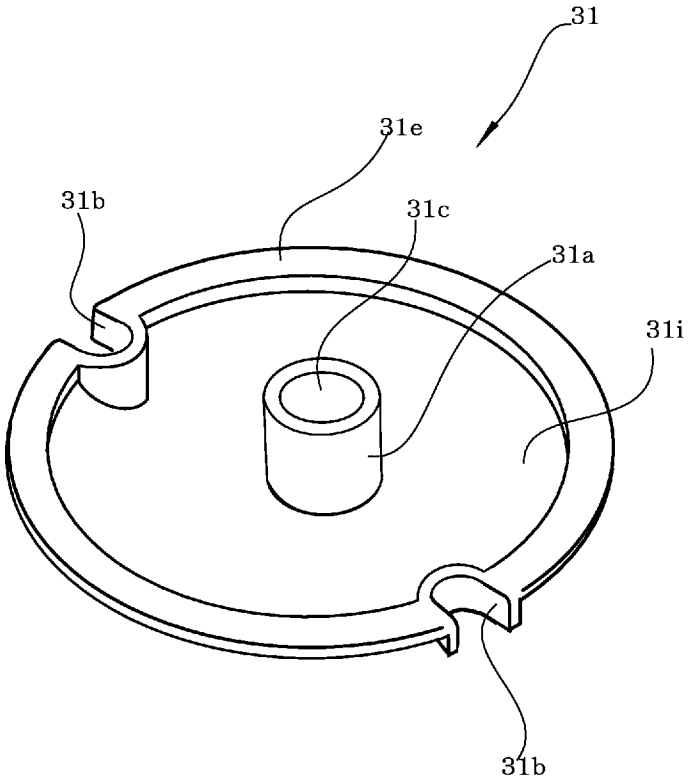
[図2]



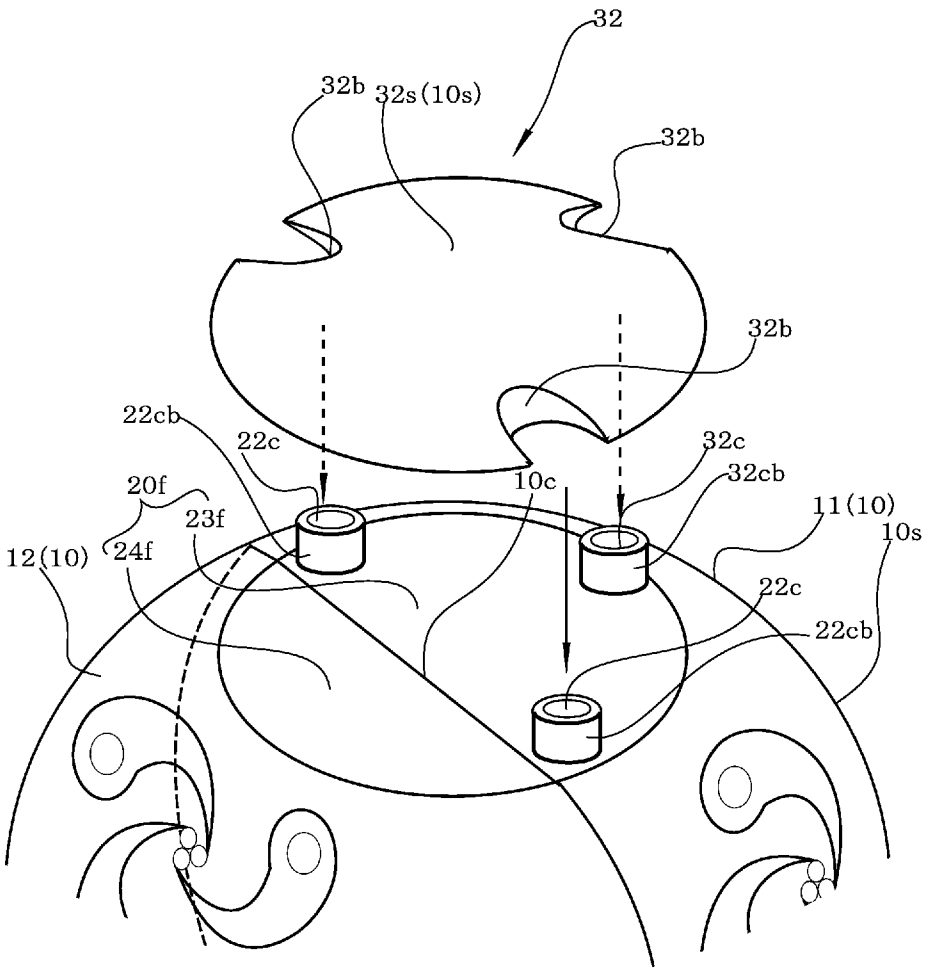
[図3]



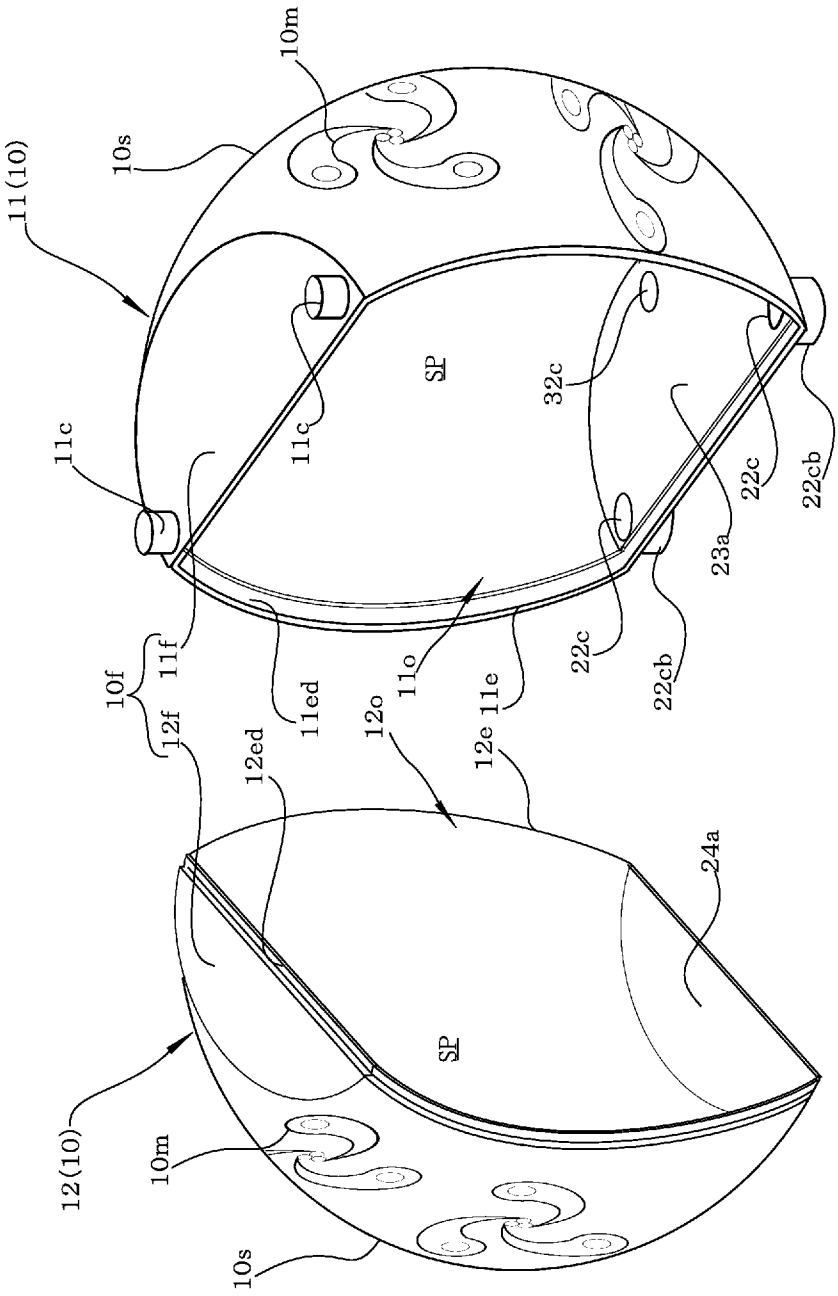
[図4]



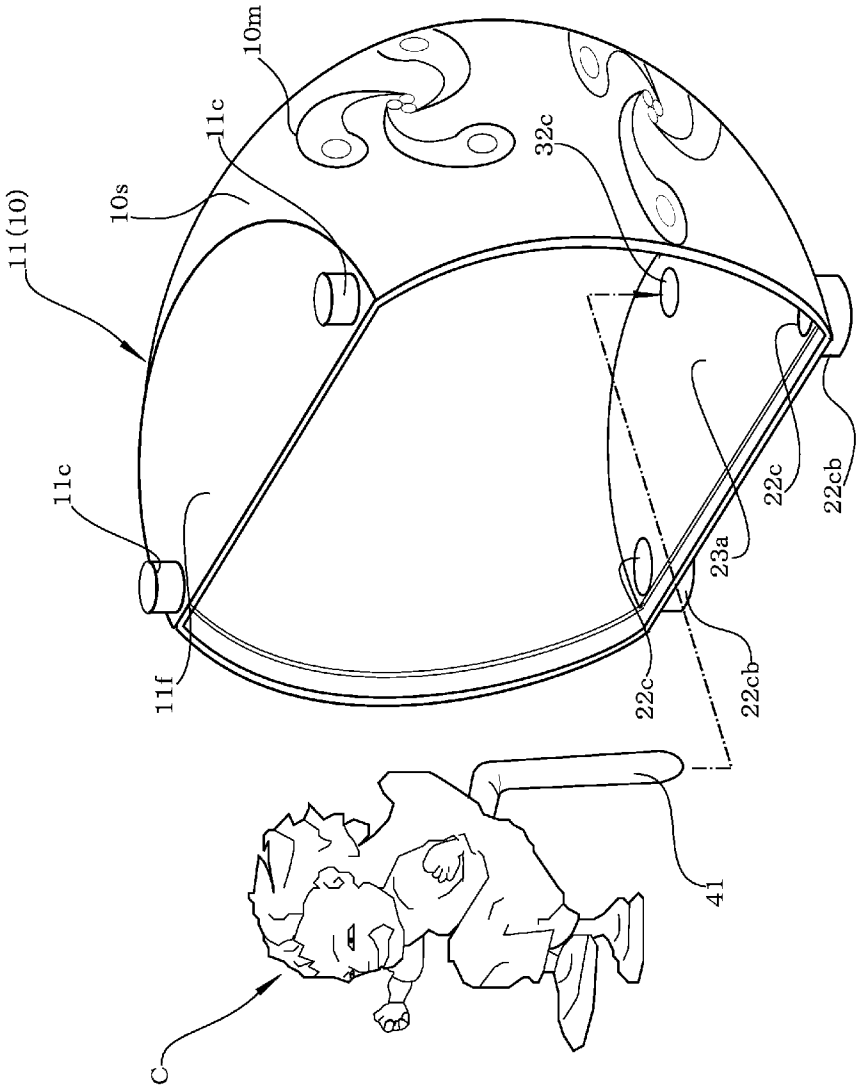
[図5]


32
32b
32s(10s)
32b
32b
22cb
22c
32c
32cb
20f
10c
11(10)
10s
23f
12(10)
24f
22c
22cb

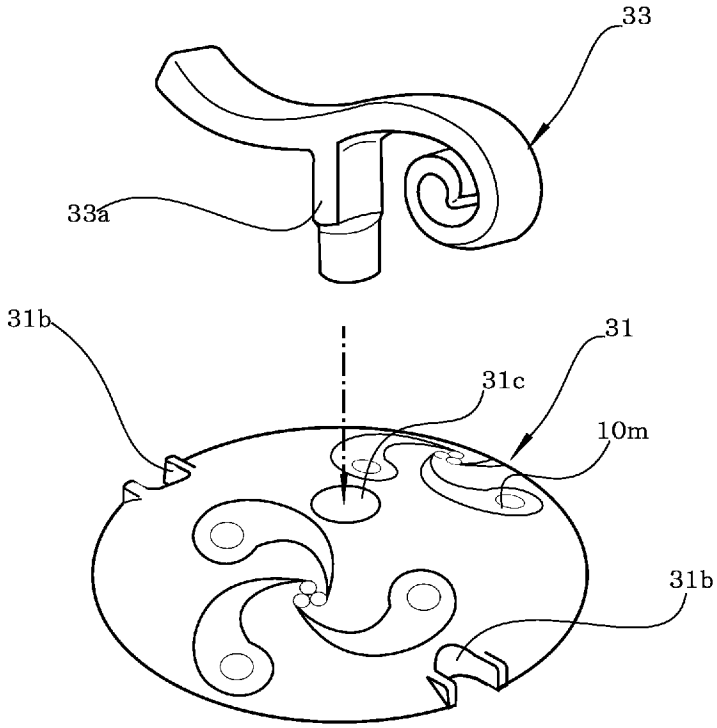
[図6]


10m
10s
11(10)
SP
32c
11c
11c
22c
22cb
23a
10f
11f
11ed
11o
11e
22c
22cb
12f
12ed
12o
12e
24a
SP
12(10)
10m
10s

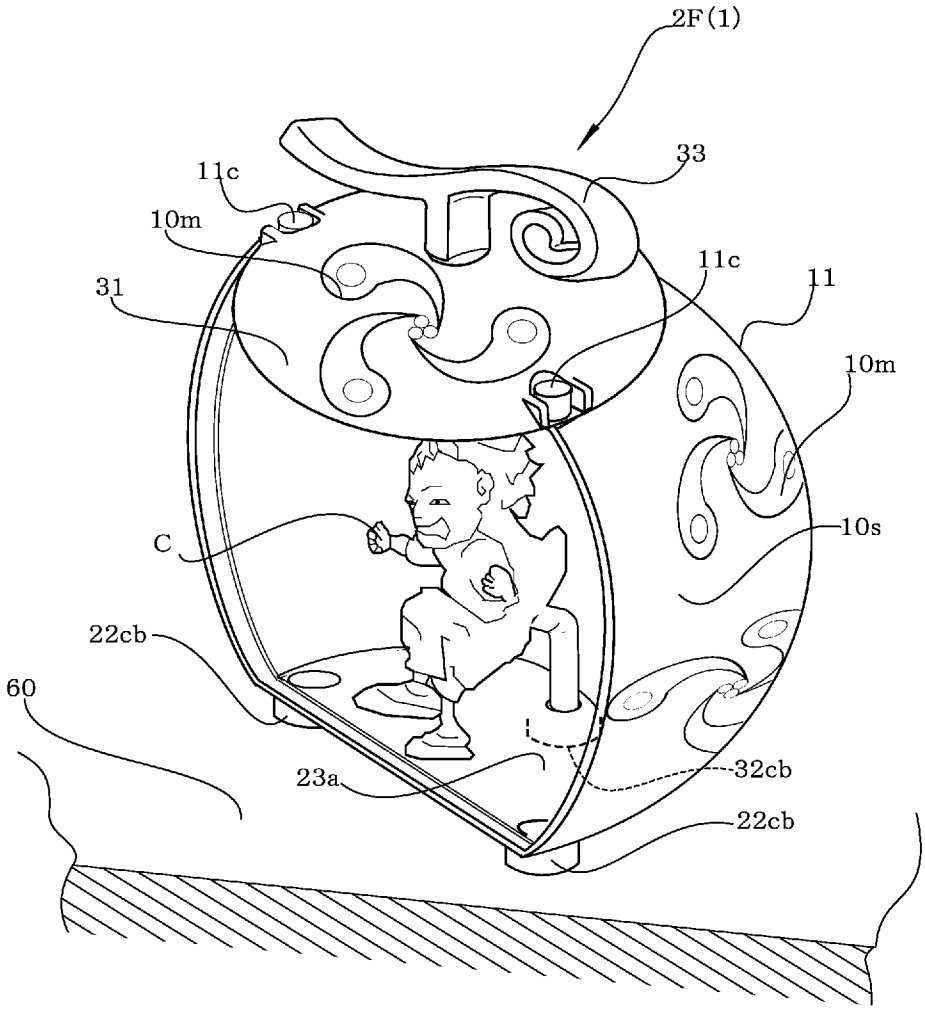
[図7]



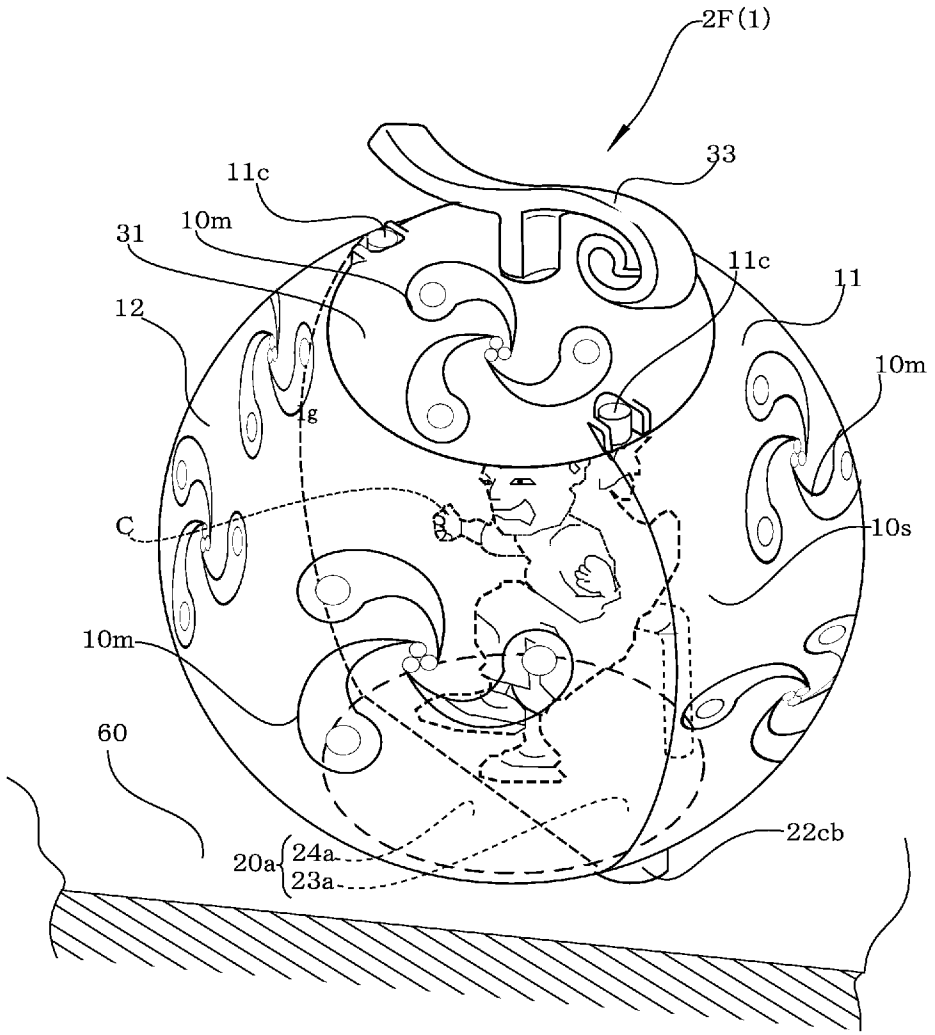
[図8]



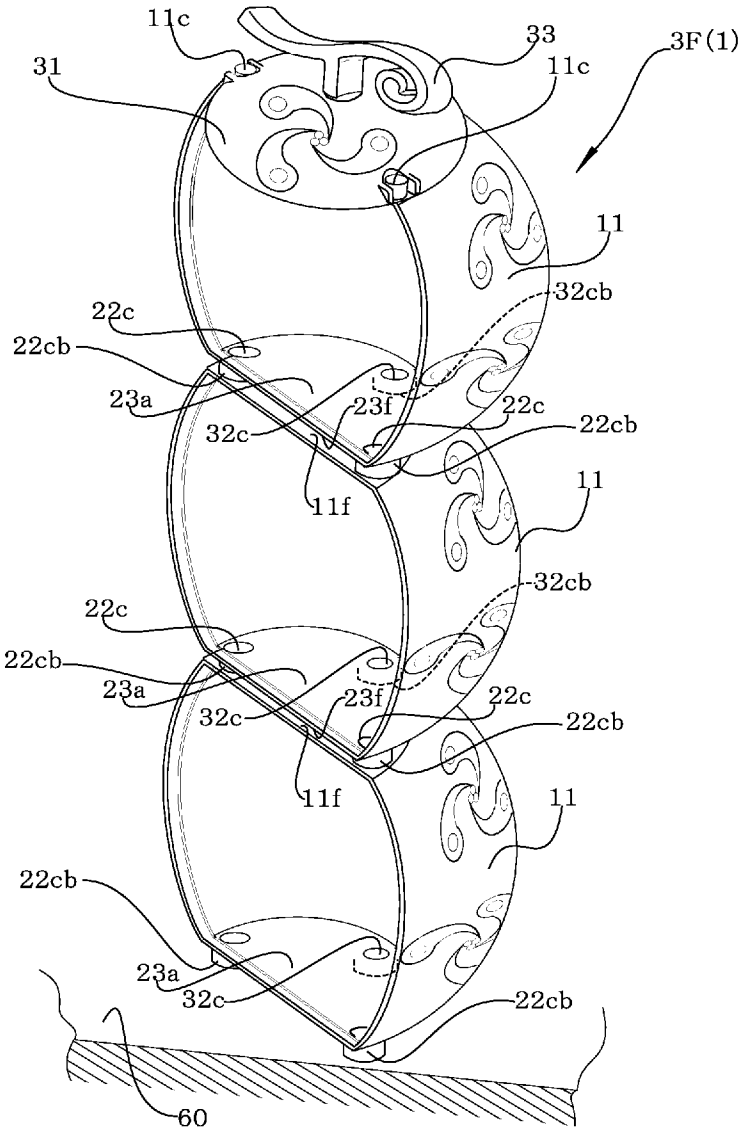
[図9]



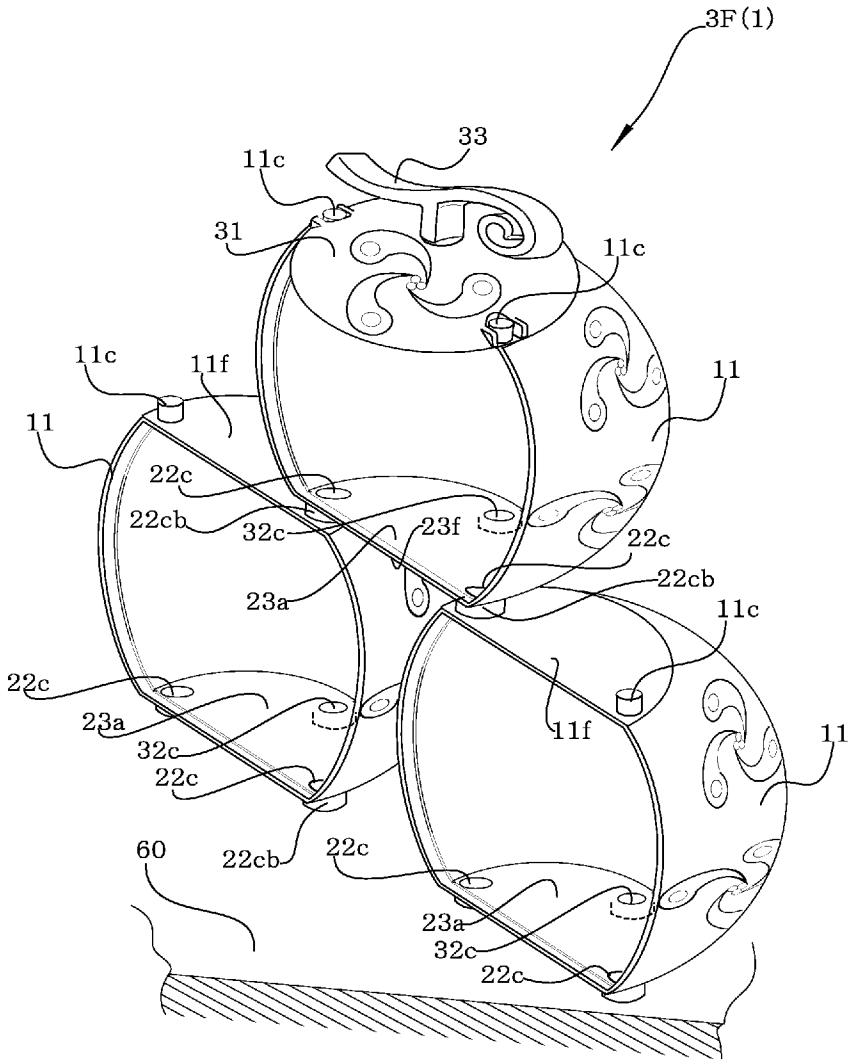
[図10]



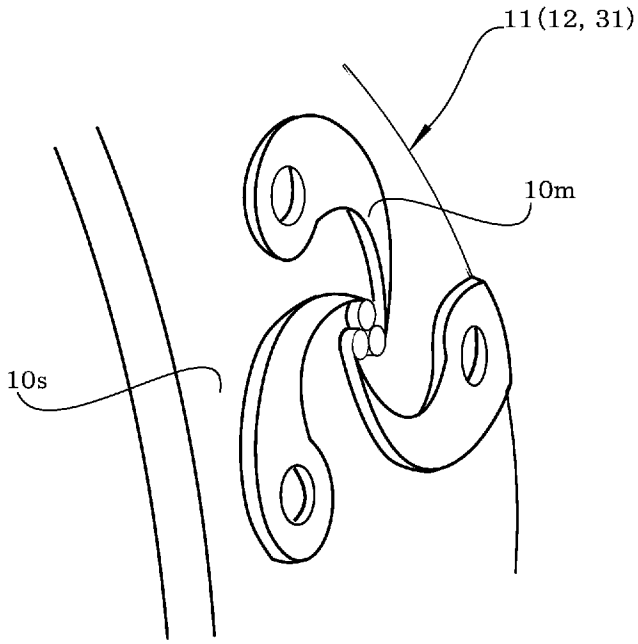
[図11]


11c
33
3F(1)
31
11c
11
32cb
22c
22cb
23a
23f
22c
32c
22cb
11f
11
32cb
22c
22cb
23a
23f
22c
32c
22cb
11f
11
22cb
23a
32c
22cb
60

[図12]


3F(1)
33
11c
31
11c
11c
11f
11
11
22c
22cb
32c
23f
22c
22cb
23a
11c
22c
23a
32c
22c
11f
11
60
22cb
22c
23a
32c
22c

[図13]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2022/017211

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A63H 33/00(2006.01)i; ***G07F 11/00***(2006.01)i; ***A63H 3/00***(2006.01)i; ***A63H 3/50***(2006.01)i
FI: A63H33/00 301Z; A63H3/00 L; A63H3/50 Z; G07F11/00 Z

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A63H1/00-37/00; G07F11/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2022
Registered utility model specifications of Japan 1996-2022
Published registered utility model applications of Japan 1994-2022

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2008-36348 A (MURAKAMI KEIZO JIMUSHO KK) 21 February 2008 (2008-02-21) paragraphs [0001]-[0016], fig. 1-4	1-5, 22
A		6-21
A	JP 3175576 U (KYUGETSU CO., LTD.) 17 May 2012 (2012-05-17) entire text, all drawings	1-22
A	JP 2020-15533 A (SASANOYA COM KK) 30 January 2020 (2020-01-30) entire text, all drawings	1-22
A	JP 2019-5091 A (RIAN CO LTD) 17 January 2019 (2019-01-17) entire text, all drawings	1-22
A	JP 2019-17465 A (BANDAI CO) 07 February 2019 (2019-02-07) entire text, all drawings	1-22
A	US 2020/0330895 A1 (LEGO A/S) 22 October 2020 (2020-10-22) entire text, all drawings	1-22

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☑ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
26 April 2022	**17 May 2022**
Name and mailing address of the ISA/JP **Japan Patent Office (ISA/JP)** **3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915** **Japan**	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2022/017211

Patent document cited in search report	Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP 2008-36348 A	21 February 2008	(Family: none)	
JP 3175576 U	17 May 2012	(Family: none)	
JP 2020-15533 A	30 January 2020	(Family: none)	
JP 2019-5091 A	17 January 2019	(Family: none)	
JP 2019-17465 A	07 February 2019	WO 2019/012843 A1	
		CN 108854096 A	
		HK 1258794 A1	
US 2020/0330895 A1	22 October 2020	WO 2019/137996 A1	
		EP 3737482 A1	
		CN 111587139 A	

国際調査報告

国際出願番号
PCT/JP2022/017211

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

A63H 33/00(2006.01)i; G07F 11/00(2006.01)i; A63H 3/00(2006.01)i; A63H 3/50(2006.01)i
FI: A63H33/00 301Z; A63H3/00 L; A63H3/50 Z; G07F11/00 Z

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

A63H1/00-37/00; G07F11/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０２２年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０２２年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０２２年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー*	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
X	JP 2008-36348 A (有限会社村上敬造事務所) 21.02.2008 (2008-02-21) [0001]-[0016], 図1-4	1-5, 22
A		6-21
A	JP 3175576 U (株式会社久月) 17.05.2012 (2012-05-17) 全文, 全図	1-22
A	JP 2020-15533 A (ささのやドットコム株式会社) 30.01.2020 (2020-01-30) 全文, 全図	1-22
A	JP 2019-5091 A (株式会社リアン) 17.01.2019 (2019-01-17) 全文, 全図	1-22
A	JP 2019-17465 A (株式会社バンダイ) 07.02.2019 (2019-02-07) 全文, 全図	1-22
A	US 2020/0330895 A1 (LEGO A/S) 22.10.2020 (2020-10-22) 全文, 全図	1-22

☐ Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☑ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー
“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
“&” 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
26.04.2022	17.05.2022

名称及びあて先
日本国特許庁(ISA/JP)
〒100-8915
日本国
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

権限のある職員（特許庁審査官）
岸　智史 2D 3603
電話番号 03-3581-1101 内線 3241

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号
PCT/JP2022/017211

引用文献	公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP 2008-36348 A	21.02.2008	（ファミリーなし）	
JP 3175576 U	17.05.2012	（ファミリーなし）	
JP 2020-15533 A	30.01.2020	（ファミリーなし）	
JP 2019-5091 A	17.01.2019	（ファミリーなし）	
JP 2019-17465 A	07.02.2019	WO 2019/012843 A1	
		CN 108854096 A	
		HK 1258794 A1	
US 2020/0330895 A1	22.10.2020	WO 2019/137996 A1	
		EP 3737482 A1	
		CN 111587139 A	